

# NABARI

# News

Nabari Doku-budousyu Jiken  
Okunishi Masaru-san wo  
Mamoru Tokyo no Kai

名張毒ぶどう酒事件・奥西勝さんを守る東京の会

〒113-8463 東京都文京区湯島 2-4-4 5F

日本国民救援会東京本部気付

電話 03-5842-6464 FAX 03-5842-6466

URL <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~nabari/>

## Contents

◎8月5日八王子医療刑務所要請行動報告

◎8月22日名古屋要請行動報告

◎夏期カンパありがとうございました!

◎勝さんを励ます面会通信

◎会員紹介



## 8月5日八王子医療刑務所 要請行動報告

堀江恭子

この間、奥西さんに面会を続けていてくれる特別面会人の稲生さんより、名古屋拘置所と八王子医療刑務所とで、葉書等の扱いが違っているとの報告を受けました。東京の会として、奥西さんの病状についての心配もあり、独自に要請行動を行いました。

8月5日、名張・東京守る会を代表して、落合さん、宮崎さん、私。そして、特別面会人でもある八王子の佐藤さん4名で、八王子医療刑務所に要請に行きました。

医療刑務所には3名までしか入れない、ということで、落合さん、宮崎さん、私が直接要請をしました。対応したのは、処遇部主席矯正処遇官・看守長の磯貝真之さん。

要請内容としては、以下の4点。

- ①奥西さんの病状がいよいよ深刻な事態にあることに鑑み、特別面会人である稲生昌三氏のほかに、地理的に近い住居を持つ東京の特別面会人3名のうち1名(落合修氏)を重篤指定していただきたいこと。
- ②特別面会人・稲生昌三氏が奥西勝さんに送付したアムネスティ・インターナショナルからのメッセージカードを奥西さんに見せてもらいたいこと。
- ③写真・絵手紙の差し入れについて、最低限、名古屋拘置所で可能だった範囲は認めていただきたいこと。
- ④奥西勝さんの病状に即して、リハビリやマッサージなどもしていただきたいこと。

奥西さんの治療については、磯貝さんをはじめ、医療刑務所が十分気を遣っていただい

ていることにまず感謝をしました（寝たきりが続いているのに、床ずれができていないなど）。

上記4点について、八王子医療刑務所としては、

①稲生さん自体が異例の扱いとなっている。もう一人追加というのは難しい。交代ならあり得る。

②③名古屋拘置所のやり方（黒塗りをしないでそのまま入ること）が、行き過ぎだと感じている。

④奥西さんの病状をみながら、きちんと対応をしている。

との回答でした。名古屋拘置所で長年続けてきた運動で少しずつ実現していったことを、一気に八王子医療刑務所にあてはめることは難しい、と感じました。奥西さんには時間がないことを思うと焦るばかりですが、ここは、私たちが八王子医療刑務所との信頼関係を築くことで、一つひとつ改善していくしかないと思いました。

## 8月22日名古屋要請行動報告

堀江恭子

夏休みを利用して、8月22日、名古屋要請行動に参加してきました。東京・名古屋・長野・兵庫・大阪などから19名の参加でした。

名古屋高裁と高検に何度か要請に参加していますが、対応している方々の、ただただ「(上に)伝えます」の態度に苛立ちながら、それでもしつこく、自分の思うところを訴えてきました。

名古屋高裁では、奥西さんの病状を重々知りながらの不当判決に、参加者は怒りを込めた訴えとなりました。

名古屋高検では、証拠開示の問題を中心に訴え、ジュネーブの国連本部、自由権規約委

員会から厳しく出された勧告に従うよう、訴えました。

今、裁判を闘う上で、いちばん大切なのは証拠開示です。裁判所も検察も、全証拠を精査した上で、判断するのが正義だと、一刻も早く隠している証拠を全て出すよう訴えてきました。

## 夏期カンパありがとうございました！

皆さまからのカンパは10万円を超えました。奥西勝さんのために大切にに使わせていただきます。

### 会費・カンパありがとう（敬称略）

須澤溪子、清水菊美、渡辺信之、渡辺真哉、佐々木光明、藤本増美、清永太郎、桜井昌司、酒井英光、森岡カズ子、石川ひろ子、佐藤賢治、色部稚恵、堤祝子、渡辺昌也、前田カヨ子、田中豊、吉田桂子、天野真理子、竹内郁夫、佐藤奈緒美、寺下章夫、野口浩一、鈴木秀肖、春日信男、唐沢公平、越善久子、江口奈保子、倉谷順一、下山珪子、植島美恵子、堀田あき、石川哲男



## 無実の死刑囚・奥西勝さんを励ます面会通信 No.268

2014年8月21日

国民救援会愛知・中央本部  
顧問 特別面会人 稲生昌三

●お盆の8月12日に、伊賀上野にある奥西家のお墓参りに、今年も行ってきました。面会人の奈良・奥谷さん、大阪・早川さん、東海テレビの元カメラマン・門脇さんとともに、奥西さん妹・岡美代子さんもお出でになられて一緒にしました（マスメディアの取材があり、中日新聞で報道）。

この奥西家のお墓は、事件後、奥西さんが自白を撤回、無実を主張して後、村人によって共同墓地から捨てられるように畑に移されたものを、1988年、母タツノさんが亡くなる少し前、「あまりにも……」の思いから、岡美代子さんのご主人のご苦勞・お世話によって、現在の市民共同墓地に移されたものです。

妹・岡美代子さんは墓前で、「兄はかわいそう。無実の兄を救って下さい。奥西勝の父母や息子の勝久が見守ってくれていると思う」と語っておられました。奥西さんとの面会で様子をお伝えすれば、きっと喜ばれ、励ましになると思い、今日、奥西さんに早速、お伝えしましたら「ありがとう、ありがとう」のお礼でした。大阪の早川さん、奈良の奥谷さん、東海テレビの門脇さんもご一緒したと伝え、「覚えていますか」と尋ねると、首を振って「判る、覚えている」との返事でした。

●ある介護関係の経験者、施設の責任者のお二人の方に、八王子医刑に移送されて2年2ヵ月余の奥西さんの病状などを説明、アドバイスを頂きました。「私達の経験とご様子から、88歳のご高齢、しかも点滴で命を繋いでいる方、適切な医療対応も重要だが、生きる気力と意志がすべて。もうダメかと握っている手を離して諦めたら、続かないでしょう」「どんなことがあろうと生きて、果たすぞとの思いが決めるんですね。人の力は大きい」との指摘。「やはり、あらゆる励ましと支えがつつたわること、これが決めるのではないか」と共通した言に、奥西さんに全国からの励まし、弁護団や支援者の励ましを伝えることの大事さを痛感。何とか東京から特別面会許可者の増員をはかり、毎週でも面会が出来るように出来ないか、緊急の課題と思いました。

●面会に伺うと点滴中とのこと、少し待って「奥西さん！判りますか」と声を掛けると、頷いてみえました。たったの5分（実際は7～

8分粘る）、国民救援会第57回全国大会での名張事件支援や冤罪とのたたかい、大須宣伝に続いて、9月10日、許し難い死刑判決から45年、終日の名古屋高裁への宣伝やデモンストレーションや8月末～弁護団合宿、さらに広がる「約束」上映運動、22日の要請行動で署名も要請ハガキも積み上げられることなどを伝えました。「奥西さん、頑張ってください」「負けないで……」と声を掛けてきました。

「痛いところがありますか、腰はどうですか」と尋ねると、「両手と足首と指先が痛い」とのこと、左手の手のひらを少し広げようとすると顔をしかめて痛がる様子。特に左手の指が固まって動かなくなっているようで心配です。もう2年余、手足の指に器機をセットしているわけで、ジーっとしていれば固まってしまうと思います。

血圧上108、下61、少し低いか。血中酸素99、心拍105前後、呼吸は19で落ち着いていましたが、別れの際には両手を握って、右手を振り合って「またすぐに来ますから、頑張ってください」と声を掛けてきました。

●8月5日、東京守る会が刑務所要請行動を行ったことが落合さんから報告されました。処遇関係の回答は、まったく規則と管理の立場からのもので高圧的とのことでした。名古屋拘置所における処遇に比して、面会人が送った写真や絵手紙を一部しか本人に渡さない、見せないなどがわかってきました。

7月24日、国際人権委員会の第6回日本政府の報告に関する総括所見が公表されました。死刑確定者が40年以上にわたり、昼夜間、独居に置かれ、収容体制が残虐、非人間的あるいは品位を傷つける取り扱いに懸念、弁護側にすべての検察側資料（証拠）への全面的なアクセスの保障を直ちに行うこと、独立した国内人権機関の設置の必要性などが指摘されています。病身の状態にあります、奥西さ

んに対しての処遇について検討して、さらに要請を行う必要があると思います。

●次回の面会は9月5日、午後1時～、9月24日、午前11時～ 予定、と約束して別れてきました。絵手紙は335通、写真もかなり送ってきました。状況を明らかにして、9月に改善の申し入れを行います。

## 会員紹介

ただお  
小川 洋夫

国民救援会千代田総支部支部長



私が名張毒ぶどう酒事件にかかわったのは、20数年前、救援会愛知県本部から呼びかけがあり、自分たちの足と目で確かめようと千代田総支部として独自の現地調査を行ったことがきっかけでした。救援会愛知県本部と連絡を取り、現地で赤瀬川さん、飯野さんお二人が私たちを暖かく迎えてくれ、早速、40数戸の葛尾部落を車で案内してくれました。人っ子ひとり通らない、殺人事件が起こったとは思えない物静かな集落であったのが第一印象でした。

独自現地調査とその後の全国現地調査でわかったことは、①事件現場と言われている公民館に、夕方5時ごろ、奥西さん以外に誰もおらず、毒物である「ニッカリンT」をぶどう酒に入れる機会があったと言われていたが、この時間には奥西さんが牛を散歩に連れて行くところを見たという証言が重要な決め手だったこと、②一審判決が無罪の決め手となったのは、農協に働いているIがぶどう酒を購入した時間と、一旦は農協に戻って、注文した折詰弁当を引き取りに行った時間が、それぞれ店主の証言通りとすれば、奥西さんの犯行に矛盾が生じると判断したこと、③二審で

は一審判決の無罪の決め手となったそれぞれの店主の時間帯の証言を「勘違いだった」と警察の筋書きに変えられ、奥西さんしか犯行に及んだものがないと「死刑」の判決を下したことで、53年もの間、無実の人間からこんなにも長い貴重な時間を（人生を）奪うことは許されなかったと思います。

千代田総支部としても、この6月28日（土）に市ヶ谷「保育プラザ」で映画「約束」を上映しましたが、現場検証立会い時のシーンで、若い時の奥西さん（役は山本太郎）に「お父ちゃん！ お父ちゃん！」と必死に叫び続ける二人の子どもたちの姿に、何度も涙を流しました。家族と引き裂かれることは、どんなにつらいものか裁判官、検察官に訴えたい。ともかく奥西さんが生きているうちに、再審開始を勝ち取りたいと思います。私も微力ながらも支援を続けていきたいと思っています。

〈追伸〉7月26日（土）～28日（月）の3日間、福島県・郡山市で開かれた第57回救援会全国大会で、前述した20数年前、独自現地調査でお世話になった赤瀬川さんに会えました。現在も三重県本部で頑張っているらしく聞かされ、私自身も赤瀬川さんから元気と勇気をもらいました。

## 宣伝スケジュール

- ・10月16日（木）18時～  
亀戸駅
- ・11月6日（木）18時～  
蔵前駅
- ・12月5日（金）18時～  
新宿三丁目駅

